

数学

<全体分析>

試験時間	80分	解答問題数	6題
------	-----	-------	----

解答形式

〔1〕、〔2〕、〔3〕はマーク式 〔4〕、〔5〕、〔6〕は記述式

分量・難易（前年比較）

分量（減少・やや減少・**変化なし**・やや増加・増加）

難易（易化・やや易化・**変化なし**・やや難化・難化）

出題の特徴

典型的な問題が中心である

その他トピックス

誘導付きではあるが、数Ⅲ分野の積の微分法が出題された

<大問分析>

問題番号	出題分野・テーマ	範囲	コメント（設問内容・答案作成上のポイントなど）	難易度
〔1〕	図形と方程式	数学Ⅱ	2定円に同時に外接しながら動く円	標準
〔2〕	確率	数学A	さいころ、条件付き確率	標準
〔3〕	数列	数学B	数列の和、漸化式	標準
〔4〕	対数関数 数列	数学Ⅱ 数学B	対数不等式、桁数 等比数列の和	標準
〔5〕	空間ベクトル	数学B	空間ベクトル、内積	標準
〔6〕	微分積分	数学Ⅱ	3次関数のグラフとその接線 面積	やや難

※難易度は5段階「易・やや易・標準・やや難・難」で、当該大学の全統模試入試ランキングを基準として判断しています。

<学習対策>

標準的な問題が出題の中心であり、分野に偏りが少ないので、教科書を中心に各分野を万遍なく学習することが望ましい。

今年は〔1〕〔6〕のように文系生にとっては扱いにくい、どちらかといえば理系生向きの問題が出題された。なお、英数のマーク式の部分が一定の点数に達しないと、〔4〕～〔6〕の記述部分は採点されないので注意が必要である。